

## 事業プロフィール

# 油脂事業

当社グループのコアコンピタンスは「油脂」であり、コアコンピタンスである「油脂」をさらに強化、競争優位を明確に打ち出すために2021年4月に事業単位の変更を実施し「油脂・油糧」と「加工油脂」からなる「油脂事業」としました。

「油脂・油糧」は、主に大豆や菜種の油糧原料を輸入し、搾油することで油脂とミールを製造し、油脂は主に日本国内のホームユース、業務用、加工用の領域で、ミールは主に畜産業界の飼料用として販売しています。またオリーブ油、ごま油、アマニ油など食卓でも大人気の「かけるオイル」の製造販売も行っています。

「加工油脂」では、パーム油を主原料とし、チョコレート用油脂を中心としたスペシャリティファットや製菓・製パン用のマーガリン・ショートニング等を製造し、加工用メーカーを中心に販売を行っています。

### 機会とリスク

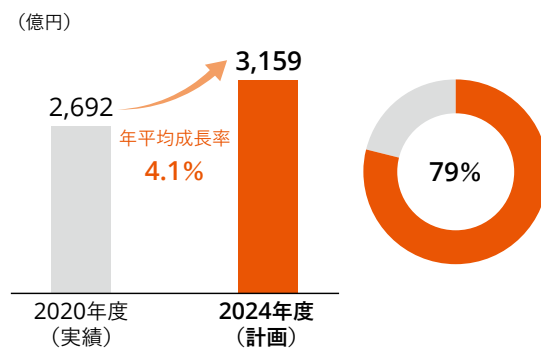
| 機会                            | リスク                                        |
|-------------------------------|--------------------------------------------|
| ・健康目的のための油脂積極摂取層の増加           | ・健康をターゲットとした市場の競争激化                        |
| ・食スタイルの多様化による中食・調理済み食品市場の拡大   | ・調理機会の減少による家庭での油脂離れ                        |
| ・人手不足を背景とした食品産業における省力化ニーズの高まり | ・気候変動の激化や世界的な油脂需要の増加による原料の安定調達およびコスト上昇のリスク |
| ・新興国の発展による嗜好品市場の拡大            | ・コロナ禍により縮小した外食市場の回復の遅れ                     |

## 油脂

油脂・油糧

加工油脂

### 2024年度の事業規模（売上高） 2024年度構成比



## 油脂・油糧



常務執行役員  
食品事業本部副本部長 兼  
商品戦略部、通信販売部担当  
**岡 雅彦**

### コアコンピタンスの油脂を究める

ホームユース領域においては、当社ブランドをお客さまに長年ご愛顧いただいていることが強みです。それにより幅広い提案が可能となり、マーケットの創造を実現してきました。また、業務用領域においては、多様な業態とのお取引で得た知見を活用したソリューション提供によって、技術力と提案力に対する信頼を獲得しています。当社ブランドと技術力、提案力を磨き上げることが「油脂を究める」ことにつながると考えており、成長に向けて油脂をさらに強化していきます。

油脂・油糧事業は、食卓から工場まで、消費者の生活を支えるあらゆるチャネルとの接点を持ち、ホームユース領域、業務用領域、加工用領域のすべての領域でお客さまからの高い信頼を獲得することで、高い市場シェアを誇っています。日本における食用油のリーディングカンパニーとして、お客さまの共感を得られる価値創造、ソリューションの継続的な提供を通じて、お客さまの満足度や商品価値を高め、期待と信頼を醸成することで、共に持続的な成長を果たしていきます。

### 強化のポイント

- 多様化し、変化するお客さまのニーズを分析し、理解するための消費者分析力
- 多様なチャネルとの接点があることを最大限に活かした統合型マーケティングの深耕とエリア戦略

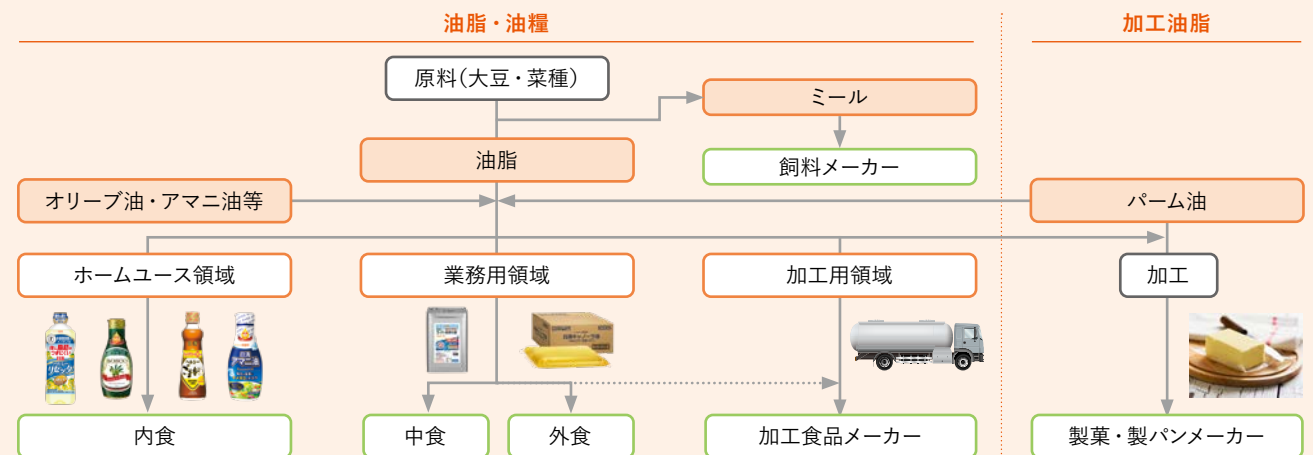
### 将来を見据えた

#### アライアンス

当社と株式会社J-オイルミルズは、国内製油産業の長期的な課題についての共通認識のもと、将来にわたる安定的な供給の維持、製油産業の発展を通して日本の食を支えることを目指し、川上領域である搾油工程（原油とミールの製造）までを範囲とした業務提携基本契約を2020年3月に締結しました。2021年5月からは、国内搾油機能の全国統合を見据え、その第一ステップとして、両社が岡山県倉敷市に有する搾油工場を対象とし、共同出資による搾油合併会社設立に向けた具体的検討を進めています。

### 油脂事業として目指す姿

- ・「油脂」での価値創造を果たすとともに、グループ全体の推進力として他事業での新しい価値創造へのエンジンとなる
- ・「油脂」は当社グループのコアコンピタンスであり、さらなる強化を進め、グローバルおよび国内での基盤をさらに強化し、競争優位を獲得する
- ・成熟化が進む国内市場では付加価値化の一層の加速とともに、資産の組み替えと資本効率向上に取り組む
- ・海外事業の拡大に向け、グループシナジーを活用した展開エリアでの深耕と新規市場での提携などを進め、チョコレート油脂を中心とするスペシャリティファットの世界トップレベルの企業グループとなる



## 加工油脂



常務執行役員  
加工用事業部長 兼 加工油脂営業部、  
加工用事業企画部、  
ユーザーサポートセンター担当  
**梨木 宏**

### スペシャリティファットの 世界トップグループを目指す

海外売上高比率が高い加工油脂事業は、世界戦略を牽引する事業です。スペシャリティファットやパーム油の製造・販売を担うIntercontinental Specialty Fats(ISF)を中心にバリューチェーンを構築しており、チョコレート等の最終商品での機能発揮まで見据えた製品開発やソリューション提供が強みです。油脂加工の技術にさらに磨きをかけ、サステナビリティに配慮した調達を推進しながら、スペシャリティファットの分野において世界トップグループ入りを目指していきます。

加工油脂事業では、ISFを起点にアジア、欧州、北米をターゲットに油脂加工技術やユーザーサポート機能の発揮でチョコレート市場の成長を取り込み、チョコレート用油脂の販売数量拡大で世界のトップグループ入りを果たします。

### 強化のポイント

- 前中期経営計画で構築した拠点（ISF Italy、ISF上海）のフル活用と新たな拠点の構築
- 重点エリアでのグローバルユーザーサポート体制の構築
- 原料のサステナビリティ追求

## 事業プロフィール

# 加工食品・素材事業

加工食品・素材事業は、当社グループが持つ素材を体系的に整理し、「チョコレート」「調味料」「機能素材・食品」「大豆素材・食品」から構成されています。「チョコレート」は業務用チョコレート製品の製造・販売を行っており、日本の大東カカオ株式会社を中核に、近年ではインドネシアにも拠点を設立するなど、グローバル化を進めています。「調味料」は日本でのドレッシング等の製造・販売を行っています。「機能素材・食品」はMCT(中鎖脂肪酸)やウエルネス食品等の製造・販売を行っています。そして、「大豆素材・食品」は加工食品向けの大豆たんぱく商品や、醤油の原料となる脱脂大豆の製造・販売を行っています。

### 機会とリスク

#### 機会

- ・高齢化社会の進展に伴う、認知症・フレイル予防ニーズの高まり
- ・新興国の発展による嗜好品市場の拡大
- ・おいしさに求められる要素や食品素材に求められる機能の多様化
- ・プラントベースドフードの需要の高まり

#### リスク

- ・高齢者や予防医療をターゲットとしたマーケットの競争の激化
- ・持続可能性に欠けた原料を扱うことによるレピュテーションリスク
- ・気候変動の激化による原料の安定調達およびコスト上昇のリスク
- ・コロナ禍により縮小した土産物市場の回復の遅れ

### 加工食品・素材事業として目指す姿

- ・新たな価値を生み出すために、当社グループの各部門、会社で完結していた事業の連携を強化し、ひとつの戦略単位として、投資判断やモニタリングを行い、拡張性を持つ事業とする
- ・素材を持つ強みを活かし、油脂のアプリケーション技術を磨くことで油脂のさらなる強化につなげ、多様な価値を生み出す好循環サイクルを作る
- ・グループが一体となり、他社も巻き込む「食の新たな機能を生み出すプラットフォーム」の役割を担う



執行役員  
業務用広域営業部長、  
ユーザーサポートセンター長 兼  
加工食品・素材事業企画室担当

寺口 太二

### アプリケーション開発でさらなる価値創造

油脂を中核とした事業展開の中で、油脂周辺領域の加工食品や素材も保有していることが当社グループの特徴です。また、それら素材を組み合わせるアプリケーション開発を行える技術力が強みのひとつです。三大栄養素のうち、「脂質」と「たんぱく質」を扱う当社グループが、食を通じて社会に貢献できる役割は大きいと考えています。食の新たな潮流に対応すべく、油脂領域も含めて横断的に連携し、技術開発を通じて価値創造していきます。

## 加工食品・素材

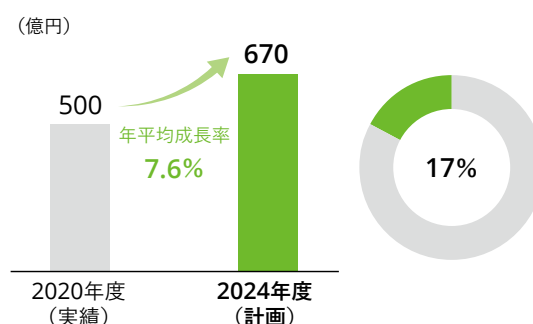
チョコレート

調味料

機能素材・食品

大豆素材・食品

### 2024年度の事業規模（売上高） 2024年度構成比



### PICK UP 結晶性油脂（商品名：エネクイック）

当社の独自技術により、中鎖脂肪酸を約90%配合したパウダー状の油脂を開発しました。くちどけが良く、ひんやりした食感のため、食欲がない時でも食べやすいという特長があります。また、100%油脂でできているため、少量でエネルギーアップできるというメリットがあり、食が細くなった高齢者の低栄養改善に有効です。病院や介護施設での評価も高く、今後さらなる拡販を進めていきます。



大東カカオ株式会社  
代表取締役社長

竹内 成行

### 強みの活用による、ソリューション提供

大東カカオは、カカオ豆からチョコレートまで、社内一貫体制のもとで高品質な業務用製品を生産しています。専門メーカーとして長年培われた経験と生産技術により、求められる味と風味を自在にコントロールできることが強みです。また、チョコレートの食感に影響する油脂について、日清オイリオグループの技術力を活用することも強みです。それぞれの強みを持ち寄って開発を行い、多様なニーズに最適なソリューションを提供していきます。

# ファインケミカル事業

ファインケミカル事業は、「ファインケミカル」「環境・衛生」から構成されています。「ファインケミカル」は、化粧品分野を中心とし、機能性素材を開発・販売しています。日本国内だけではなく、スペイン・上海にも拠点を置き、グローバルに事業を展開しています。

「環境・衛生」は、セッツ株式会社を中核とし、アルコール製剤や洗剤などの製造・販売を行っています。また、グループ全体で植物資源の工業用途利用に向けた技術開発を推進し、商品・サービスを通じて環境課題を解決するための取り組みを進めています。

### 機会とリスク

#### 機会

- ・国際的に高まる化学物質の安全性への要求
- ・化粧品における植物由来原料の需要の高まり
- ・新興国の発展による化粧品市場の拡大
- ・環境配慮型ビジネスへの評価の高まり

#### リスク

- ・コロナ禍により縮小した化粧品市場、インバウンド市場の回復の遅れ
- ・持続可能性に欠けた原料の取り扱いや、認証の未取得による競争力の低下
- ・環境配慮型ビジネスの競争の激化

### ファインケミカル事業として目指す姿

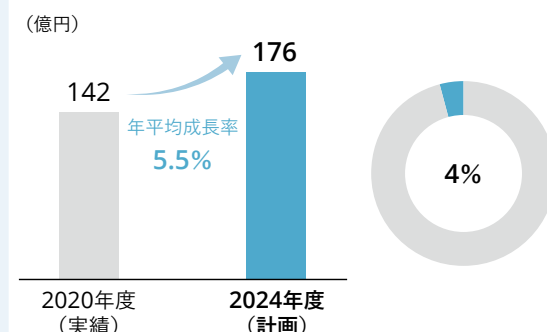
- ・化粧品油剤のリーディングカンパニーとしてグローバル展開を加速し、世界市場での存在感を強める
- ・エステル合成技術とのシナジー効果をもたらす提携戦略などを活用し、事業領域の拡大を進める
- ・“植物のチカラ”を活用した新たな価値の創出に挑戦し、課題解決型の事業を立ち上げる

## ファインケミカル

ファインケミカル

環境・衛生

### 2024年度の事業規模（売上高） 2024年度構成比



### PICK UP 新工場

世界の化粧品市場は新興国の経済発展を背景に伸長を続け、原料である化粧品油剤の需要も拡大しています。当社グループでは横浜磯子事業場内にファインケミカルの新工場を設立し、2021年4月から稼働を開始しています。従来の1.5倍に生産能力が向上したことにより需要拡大への対応とさらなる成長への基盤が整いました。加えて、MCTの生産能力も増強しており全社的MCT戦略も含めた基幹工場として、多様な品質対応と安定供給に貢献していきます。



取締役 常務執行役員  
海外事業、ファインケミカル事業部、  
ファインケミカル営業部担当

岡野 良治

### 化粧品油剤のリーディングカンパニーへ

化粧品油剤を中心としたファインケミカルの領域においても、食用油事業で培った油脂加工技術や精製技術の活用による、高品質な製品を提供できることが当社グループの特徴です。高い技術力により、日本のみならず中国、東南アジア、欧米市場を中心にビジネスを展開しています。注力市場での戦略的技術支援のため、テクニカルサポート機能を強化し、事業本部・海外拠点間を結ぶグローバルサポートネットワークの構築を進め、さらなる価値提供に取り組んでいきます。